

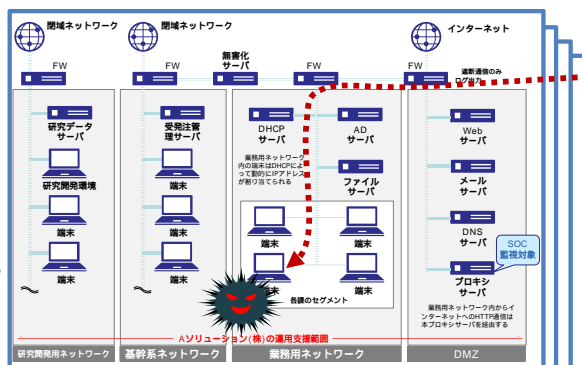
実践的サイバー防御演習 (CYDER)

CYDER: CYber Defense Exercise with Recurrence

- 総務省は、情報通信研究機構(NICT)を通じ、**国の機関、指定法人、独立行政法人、地方公共団体及び重要インフラ事業者等**の情報システム担当者等を対象とした体験型の**実践的サイバー防御演習(CYDER)**を実施。
- 受講者は、**チーム単位で演習に参加**。組織のネットワーク環境を模した大規模仮想LAN環境下で、**実機**の操作を伴ってサイバー攻撃によるインシデントの検知から対応、報告、回復までの**一連の対処方法**を体験。
- **全都道府県**において、年間100回・計3,000名規模で実施。
 ※平成29年度：年間100回・3,009名受講／平成30年度：年間107回・2,666名受講／令和元年度：年間105回・3,090名受講

演習のイメージ

NICTの有する**技術的知見**を活用し、サイバー攻撃に係る我が国固有の傾向等を徹底分析し、現実のサイバー攻撃事例を再現した**最新の演習シナリオ**をコースごとに用意。



実際の大規模LANを模した環境を、受講チームごとに専用環境として構築



擬似攻撃者

NICT北陸StarBED技術センターに設置された大規模高性能サーバー群を活用



演習実施模様
専門の指導員による補助



機材・データを使用して本番同様の作業を実施



インシデント(事案) 対処能力の向上

令和2年度の実施計画 (調整中)

※このほか、令和3年1月頃から未受講の地方公共団体を対象としたオンライン演習を導入予定

コース	受講対象組織	対象者	開催地	開催回数	実施時期
Aコース (初級)	全組織共通	システムの運用担当者 (システムの利用者レベルを含む)	47都道府県	60回	8月以降
B-1コース (中級)	地方公共団体	セキュリティ管理業務を 主導する立場の者	全国11地域	20回	秋以降
B-2コース (中級)	国の機関等、 重要インフラ事業者等		東京・大阪 ・名古屋	20回	秋以降

実践的サイバー防御演習（CYDER）の受講について

申し込み方法

<https://cyder.nict.go.jp>
から直接申し込みください。



よくある質問

受講者はどのような人か。

各組織の情報システム担当者やCSIRT要員の受講を想定しています。
現に従事せずとも従事予定がある場合なども受講可能です。

1人でも参加可能か。

組織当たり1名でも複数名でも参加可能です。人数制限はありません。
他組織の参加者とチームになり4名1組で演習を実施します。1組織4名でのチーム参加も可能です。

システム管理は外部委託しているが受講する意味があるのか。

インシデント発生時に委託先がどのような作業を実施しているかを予め理解・把握しておくことで、円滑な対応につながるため受講を推奨しています。
なお、外部委託先が参加する場合(派遣労働者として指揮命令を受けている場合を除く。)は、民間事業者扱いとなるため有料での参加となります。

初級(Aコース)と中級(Bコース)の違いは何か。

初級は、これからネットワーク業務に従事するなど、サイバーセキュリティの基礎知識がない場合でも参加可能です。

初級はステップ・バイ・ステップ形式で、指導員の手厚いサポートを含めた演習となります。

中級は、コンピューターとネットワーク（WindowsとTCP/IP）及びサイバーセキュリティに関する基礎知識を有する方を想定しています。

中級では、簡易なログ解析や、ファイアウォール設定変更等を含んだ演習となります。

実機を使用する演習はハードルが高いのではないか。

演習前にオンライン教材を利用して学び、演習中は専門の指導員が補助します。無料で受講可能ですので、一度参加いただければと思います。

NISCが実施する分野横断的演習とは異なるのか。

分野横断的演習は、情報共有体制の実効性検証等を主題としており、実機での操作演習を主題とするCYDERとは内容は全く異なります。

分野横断的演習の参加有無に関わらずCYDERを受講いただくことをお願いしています。